



11月

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

開館日：8時35分～16時45分（冬季休業中は16時閉館となります。）

閉館日：図書館はお休みです



本の検索は
こちらにアクセス

<https://lib-finder.net/aoi/>

※ 生徒の完全下校は、16時55分です

『銀の海 金の大地 1』

氷室冴子／著

B913.6-ヒ

2008年惜しまれながらこの世を去った、氷室冴子さんの作品が、集英社オレンジ文庫でよみがえりました。

主人公の少女真秀が「佐保」の血をひくために、激動の時代に巻き込まれていく、古代日本ファンタジーです。

著者である氷室冴子さんが生前「大河ドラマである」と語っていたように、とにかく「古事記」をベースにした世界は壮大です。神を信じ、奇跡を崇拝する権力に支配されながらも、懸命に生き抜いていく主人公が美しく描かれています。

SHISHODOKU

『ミーナの行進』

小川洋子／著

913.6-オ

米タイムズが選ぶ「2024年の必読書100冊」に選ばれた作品です。

時は高度成長期。中学生の朋友が、従妹のミーナの家で過ごす1年間の描かれています。英訳では「Mina's Matchbox」という題名。なぜかは読めば納得。他にもミュンヘンオリンピック、ジャコビ二彗星など当時を彩る出来事やノスタルジーを感じさせる世界観が心をぽっと温めてくれます。

冬に読むのにぴったり、ホットな作品です。

日本文学に英米が注目！

昨今日本の文学作品が、海外で注目を集めています。物語の構造や展開、リズムが英語圏にはない文学と、翻訳家の方々に注目され、着実に日本文学のファンを獲得しています。

今年7月には英国ダガー賞翻訳部門（英国推理作家協会賞）に日本人2作品がノミネートされ、王谷晶さんの『ババヤガの夜』が初受賞しました。今後の日本人の活躍が期待されますね。

今まで惜しくも受賞を逃した作品多数あります。

図書館で手に取れる作品を紹介します。

〈英米文学賞ノミネート・受賞作品紹介〉

ダガー賞翻訳部門

☆横山秀夫『64』

☆東野圭吾『新参者』

☆伊坂幸太郎『マリアビートル』

☆柚木麻子『BUTTER』

ダガー賞イアン・フレミング部門

☆伊坂幸太郎『AXアックス』

英ブッカー国際賞

☆川上未映子『ヘブン』

全米図書賞翻訳部門

☆柳美里『JR上野駅公園口』（受賞）

全米批評家協会賞小説部門

☆川上未映子『すべて真夜中の恋人たち』

東京新聞2025年6月30日朝刊15面参照

